

■ VISTA 5 M2 ユーザーレポート

大阪芸術大学 様

VISTA 5 M2 - 32



VOICE STUDIO を VISTA 5 M2 で新設



大阪芸術大学
芸術学部 放送学科
小山 保広

大阪芸術大学放送学科では、番組制作について多面的に学ぶ制作コース、ラジオ・テレビのアナウンス技法を修得するアナウンスコース、放送広告の制作を学ぶ広告コース、更に昨年度新設された声のキャラクター性を表現する声優コースの4コースで専門的に授業を行っております。

放送学科の教育コンセプトは、制作・アナウンス・広告・声優の分野における基本的知識、設備機材に関する技術的技法を修得し多様化するこれからのメディア業界でも活躍できる人材の育成を目指して教育を行っております。学生たちが授業の中で学び使用する実習機材も、放送局、プロダクション及びホール等で使用されている本格的なプロ用機材を使用しています。学生達が4年間の授業を終え、大学を卒業し社会に巣立っていても将来役に立つ能力がつく充実した教育環境にあります。放送学科では1999年度より音声機器の完全デジタル化に着手し、その後照明機器、映像機器のHD化を行い今日完全デジタル化のスタジオで指導教員と学生が一体となり番組制作、CM制作等に創作意欲を持って日々努力しております。当時、デジタル化に早く着手したこ

とは、学生達にとって非常に興味深いことであり喜びでもありました。しかし、設備を保守管理する担当教員にとってデジタルノイズの発生には何度となく悩まされる日々でした。特にデジタル機器で起きるハウリングは瞬時に驚くほどの大きな音がし、その音に驚いた女子学生達の奇声で更に驚かされることが度々ありました。今日では学生達も操作にも慣れてハウリングの回数も減ってきたようです。

放送学科に昨年4月から新設された声優コースが本格的にスタートしました。4年生大学としては初の声優コースです。当学科で実習スタジオとして使用している設備は、番組制作を主として設計されたシステムであるため、声優コースが主に使用するアフレコ専用スタジオの新設計画が持ちあがりました。今回のスタジオ新設計画にあたり、次の点を考慮し機器の導入及びスタジオ改修に着手しました。

- ・ 現行のスタジオに導入されている機器と同様の性能があり、今後の授業に於いてどの様な要求にも対応できる設備であること
- ・ 機器の安定性に優れ操作が容易であることとサポート体制が充実していること

その結果、スチューダーのVISTA 5 M2を軸としDAWシステムとの組み合わせで決定しました。スタジオ改修にあたっては、声優コース希望の

学生が多いためスタジオ及びミキシングルームのスペースを十分に確保できるスタジオが要求され、大学教育において「スタジオは学生達の教室である」という私の基本理念から今回もスタジオ設計を行いました。

今年1月にスタジオが完成し、ミキシングルームにVISTA 5 M2が導入され、据え付けが完了し調整が終わり次第、オペレーションのトレーニングが開始されました。最初は短期間でマスターできるかと不安でしたが、使っている間に今までの音声調整卓より操作性が良いことに皆が驚いております。

4月から授業も始まり、「VOICE STUDIO」では学生達によるアフレコ実習等が毎日行われております。VISTA 5 M2に採用されているTFTメーターブリッジは大きくて非常に見やすく、担当教員にとっては難解なタッチパネル操作も、学生にとっては何の抵抗もなくスムーズに操作し、評判も非常に良い操作パネルになっています。私もそろそろ世代交代かなと感じている今日この頃です。今後このスタジオを使用するカリキュラムでは、アニメアフレコ、レコーディング、外国映画のアフレコ実習、卒業のための作品制作実習と使用頻度が益々多くなります。故にVISTA 5 M2の操作性、音質の良さが発揮されるものと自負しております。